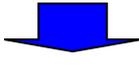


(テーマ) 住民と行政がともに考える川づくり

氏名：水上幸夫

作成日：2017年8月29日

背景	私は川は住民の宝でありできるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川の事を自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには行政(河川管理者)と住民がともに考える川づくりを進める事が重要であると考えている
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 野洲川が多くの人の活動場所となる。</li> <li>② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる</li> <li>③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる</li> <li>④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する</li> </ul> <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民参加の川づくり</li> <li>② 企業参加の川づくり</li> <li>③ 地元中学校参加の川づくり</li> </ul> <p><b>第1段階住民とのネットワーク(信頼関係づくり)構築 (2017年度)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民とのネットワーク(信頼づくり)を構築する</li> <li>② 地域住民へのヒアリングや野洲川を知ってもらうための出前講座等により野洲川の思いを聴く</li> <li>③ 地域住民だけではなく企業への信頼関係づくりとネットワークを構築する</li> <li>④ 野洲川河口部のヨシ帯調査については「住民(地元中学校)と行政が連携した住民参加の川づくり」の先進事例となるような新たな活動の模索</li> </ul> <p style="text-align: center;"></p> <p><b>第2段階 住民及び企業が川づくりに参加できるような仕組みづくり(2018年度～2019年度)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1段階で構築した住民とのネットワーク(信頼関係)により住民の思いと行政の思いをつなぐ活動の計画を立てる。</li> <li>・地域住民が川づくりに参加できる仕組みづくりの試行をする。</li> </ul> </li> <li>② 企業が川づくりに参加できる仕組みづくりを試行する。</li> <li>③ 野洲川河口部のヨシ帯調査については「住民(地元中学校)と行政が連携した川づくり」の先進事例となるように新たな活動として発展させていく(2018年度)</li> </ul> <p style="text-align: center;"></p> <p><b>第3段階 野洲川において住民と行政がともに考える川づくりの試行(2020年度～2021年度)</b></p>
今年度の成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 住民とのネットワーク(信頼づくり)を構築する</li> <li>2. 野洲川河口部のヨシ帯調査については「地元中学校と行政が連携した川づくり」の先進事例となるような新たな活動の模索</li> </ul>

内容	<p>1. 住民とのネットワーク(信頼づくり)を構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民へのヒアリングや野洲川を知ってもらうための出前講座等によりできるだけ多くの住民の方々から野洲川の思いを聴く。(地域住民の潜在ニーズの掘り起こし)</li> <li>・住民だけではなく企業への信頼関係づくりとネットワークを構築する 野洲川に関心を持っている企業の潜在ニーズの掘り起こし(ヒアリングによる)</li> </ul> <p>2. 野洲川河口部のヨシ帯調査については「地元中学校と行政が連携した川づくり」の先進事例となるような新たな活動の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政主体から住民(立命館守山中学校)が主体的に活動しそれが継続するようにコーディネートし新たな活動を模索する。</li> <li>・立命館守山中学校の思いと琵琶湖河川事務所の思いをつなぐ。</li> <li>・立命館守山中学校と行政(琵琶湖河川事務所)との意見交換会(YRP)によりお互いの思いを聴き新たな活動を模索する。</li> </ul>												
対象	<p>1. 住民・企業 2. 河川管理者(琵琶湖河川事務所) 3. 立命館守山中学校</p>												
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<p>・住民とのネットワーク(信頼関係づくり) ・地域住民及び企業の潜在ニーズの掘り起こし</p>						ヒアリング	ヒアリング	ヒアリング	ヒアリング	とりまとめ	考察	
	野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリングの新たな展開					ヒアリング	YRP開催	活動		YRP開催		YRP開催	